

労働図書館新着情報

今月の図書紹介

<p>①小酒部さやか著『ずっと働ける会社』花伝社 (212頁, 四六判)</p> <p>本書は、マタニティーハラスメント(妊婦への嫌がらせ)防止のノウハウや働き方のヒントを探るため、ワーク・ライフ・バランス(WLB)やダイバーシティに先進的な企業を取材、どうすれば働き続けられるかについて事例を提示する。H社はブラック企業とやゆされ、残業の慢性化に悩んでいたが、管理職に育児休業を命じた結果、男性社員の意識が変わり、取得率は現在33%に。かつては離職率28%という危機的状況にあったS社は、最長6年の育児・介護休業制度を始めたことにより、妊娠による退職が激減し、社長自らも育休を取得した。こうした取材を通じて著者は、マタハラ防止のための第一の秘けつとは、誰にとっても働きやすい職場づくりである、との確信を得る。</p>	<p>③高崎順子著『フランスはどう少子化を克服したか』新潮社 (219頁, 新書判)</p> <p>フランスは過去10年、合計特殊出生率を2.0で維持し、「少子化対策に成功した国」と言われている。1993年に1.66まで落ち込んだ出生率をなぜ向上させることができたのか。本書では、その背景に「3+11日間の父親産休を導入し男を2週間で父親にする」「無痛分娩の普及で体力の消耗を抑え、大変な育児に備える」「妊婦、乳幼児には医療費がかからない」「保育ではなく3歳からは全員学校に行く」などの秘策があったことが明かされる。フランス人サラリーマンの夫と共稼ぎで、パリ郊外でライターとして働く著者が自ら二児を育てた経験を踏まえ、現地の実情と生の声をレポート。日本の保育の問題点にも触れるなど今後の育児と少子化問題を考えるうえで必読の一冊。</p>
<p>②鶴光太郎著『人材覚醒経済』日本経済新聞出版社 (311頁, 四六判)</p> <p>著者は、安倍内閣が目指す「一億総活躍社会」の中心に人材・働き方改革を据えることで、将来的に生産性向上に不可欠なイノベーション(技術革新)を生み出し、男女を問わず、子育て、介護をしながら活躍できる社会を構築することが可能と主張。「ヒト」が日本経済の命運を握ると分析する。その人材改革を阻んでいるのが、日本の正社員において、勤務地、職務、労働時間(残業の有無)が事前に明確に定められていないという「無限定性」にあると断じる。無限定性がメリットだった時代は過ぎ去り、この雇用システムの「岩盤」を打破しなければならないと説く。いまこそジョブ型正社員を導入することで、眠れる人材が覚醒され、様々な難問が解決されるとの見方を示す。</p>	<p>④見波利幸著『心が折れる職場』日本経済新聞出版社 (219頁, 新書判)</p> <p>メンタルヘルスのベテランカウンセラーである著者が、心が折れるメンタル不調者が働く職場の特徴やそこで起こっていることについて、具体的なエピソードとともに解説。「職場で自然発生的な飲み会が開かれない」「キレ者上司の押しつけアドバイスがある」「無駄口をきかず効率最優先で仕事をする」といった職場では、心が折れやすい社員が多くなる傾向があるという。不調を起こす本当の理由はパワハラや長時間労働以外にも隠れていると指摘。心が折れる職場の形成を防ぐには、①勤務状況は、他人と比べず、過去と比べず②復職者を特別扱いはしない③「頑張れば禁句」は間違い——などを挙げ、大切なのは職場のリーダーが「関わる気持ち」を持つことと強調する。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

主な受け入れ図書

(2016年12—2017年1月労働図書館受け入れ)

- | | |
|---|---|
| ⑤田中周紀著『会社はいつ道を踏み外すのか』新潮社(255頁, 新書判) | ⑩筒井佳美紀著『殻を突き破るキャリアデザイン』有斐閣(xvi+204頁, 四六判) |
| ⑥大塚達生著『高齢者雇用・競争避脱義務・企業年金』旬報社(241頁, A5判) | ⑪町田祐一著『近代都市の下層社会』法政大学出版局(vi+281+7頁, A5判) |
| ⑦藤池尚恵著『弁護士は見た!職場の労働トラブル』日本経済新聞出版社(158頁, A5判) | ⑫秋山輝之著『退職金制度の教科書』労務行政(239頁, A5判) |
| ⑧石井京子他著『人材紹介のプロがつくった発達障害の人の転職ノート』弘文堂(vii+179頁, A5判) | ⑬鈴木亘著『経済学者日本の最貧困地域に挑む』東洋経済新報社(xiii+470頁, 四六判) |
| ⑨藤原佳典他著『何歳まで働くべきか?』社会保険出版社(179頁, A5判) | ⑭三枝匡著『ザ・会社改造』日本経済新聞出版社(440頁, A5判) |

労働図書館 <http://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書118,275冊、洋書30,519冊、和洋の製本雑誌25,332冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(285種)、洋雑誌(120種)、紀要(510種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23
 開館時間: 9:30 ~ 17:00
 休館日: 土曜日・日曜日・国民の祝日・年末年始(12月28日~1月4日)、その他
 電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659
 利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです
 ※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください
 レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています

